

## 第 118 回「小田実を読む」 玄順恵の「ベトナムと小田実」



発起人/北野辰一（文責）、山村雅治、北川靖一郎、川島智子、玄順恵  
いよいよ「小田実を読む」も終盤戦。第 118 回は玄順恵さんによる「ベトナムと小田実」である。

小田さんが留学・世界一周の旅から帰国した時、日本国内では 60 年安保闘争で喧しい時代であった。しかし、小田さんは、なんだか日本の内側だけでやっているような気がして、参加しなかったという。その間、『何でも見てやろう』の執筆に励んでいる。この執筆がなかったら小田さんはベ平連の代表となることはなかったのかもしれない。

小田さんがベ平連に関わることになるのは、鶴見俊輔さんからの一本の電話がきっかけであったという（小田さんが鶴見さんと話をするのはその時が初めて）。

ベ平連前史と発足を簡略に記すと、1965 年 3 月、文芸春秋画廊で富士正晴絵画展の受付をしていた鶴見俊輔に、最終日に訪れた「声なき声の会」事務連絡を中心に担っていた高島通敏が、「米国の北ヴェトナム爆撃に抗議する運動を起そう」と提案したことから発足への道が始まった。同年 4 月はじめ、本郷学士会館で相談会を開き、安保反対運動の時より若い世代から指導者を求めることに意見が一致し、小田実に頼み承知してもらえたら呼びかけ人になってもらい、さらに若い人へと輪を広げようという話になったという。

鶴見さんは大阪の小田さんのもとに電話をかけた。すると小田さんは即座にやる気があると返答したそうである。新橋のパーラーで小田実、鶴見俊輔、高島通敏は会い、よびかけ、デモの日どり、正式名称となった「ベトナムに平和を！ 市民文化団体連合」も略称「ベ平連」もその場で決まった（後に市民連合と変名）。よびかけ文は、既に小田さんが新橋のパーラーで会う時点で用意していたと鶴見さんは伝えている。そしてベ平連の正式発足は、1965 年 4 月 24 日の午後 2 時からの清水谷公園でのデモとなる。よびかけは、先に触れたように小田さんの文章である。以下、さわりだけ紹介しておく。



私たちは、ふつうの市民です。／ふつうの市民ということは、会社員がいて、小学校の先生がいて、大工さんがいて、おかみさんがいて、新聞記者がいて、花屋さんがいて、小説を書く男がいて、英語を勉強している少年がいて、／つまり、このパンフレットを読むあなた自身がいて、／その私たちが言いたいことは、ただ一つ、「ベトナムに平和を！」

『資料「ベ平連」運動』「4・24 デモの案内」より

とまあ、ここまではよく知られた話ではあります。いろんな所で聞く。ベ平連の運動が終っても小田さんはベトナムとの関わりを辞めようとはしなかった。そこはさすが文学者ならではの粘り腰と言わねばなりません。さて当日玄順恵さんはどのようなお話をされるのか今から楽しみです。ぜひお友達をお誘いあわせのうえお越しください。

日 時	2018 年 12 月 15 日（土）14:00～17:00
会 場	松山庵（芦屋市西山町 20-1）
講 話	「ベトナムと小田実」
講 師	玄 順恵（画家）
資料代	1,000 円